

新生びわ湖フローティングスクール ～「わくわく航海づくり」を進める 5つのポイント～



■ポイント1 環境学習の視点を大切にした「わくわく航海」

近年、「自然」や「人」・「社会」と関わる直接体験を重視した環境教育の充実が求められています。県内小学校での教育活動の実態やBFSへの要望等からも、そのことがうかがえます。

BFSでは、これまで取り組んできたすべての体験学習を、「自然」や「人」・「社会」との直接体験から捉え直し、共に生きる「環境」をキーワードに次の3つの領域からなる「湖の子」環境学習と位置づけ、環境学習の視点を重視した航海づくりに取り組み、たくましく生きる力を育みます。

「湖の子」環境学習

- ◇琵琶湖に学ぶ・琵琶湖を通して学ぶ …………… 「びわ湖環境学習」
- ◇共に学びあい行動する …………… 「ふれあい体験学習」
- ◇くらしをみつめる …………… 「「湖の子」船内生活」

「びわ湖学習」を「びわ湖環境学習」と改称し、琵琶湖を学ぶとともに琵琶湖から学校や家庭・地域へと深まりや広がりをもった環境学習を展開していくことを意図しています。

■ポイント2 学校の学習とのつながりを重視する「わくわく航海」

「総合的な学習の時間」や教科・特別活動等の教育計画に位置づけられるよう、事前学習（乗船前）・事後学習（乗船後）とのつながりを意識した一連の学習プログラムづくりを進めていきます。

■ポイント3 子どもの学ぶ意欲を大切にした「わくわく航海」

- これまで取り組まれてきた体験活動等を、子どもの課題意識に沿って見直し、系統立てて組み合わせることにより、子どもたちの探求活動を支援することのできる学習プログラム事例の開発を進めていきます。
- 子どもの学ぶ意欲を重視した、課題別グループ学習・選択活動等の学習形態の工夫への取り組みを進めていきます。
- 子どもの自己評価（体験学習度調査等）をもとに、事前・事後学習や学習プログラムの工夫・改善を進めていきます。

■ポイント4 常に危機管理意識をもって「わくわく航海」

2日間のわくわく航海は、様々な体験活動の成果もさることながら、子どもたちが健康で安全な生活を送ってはじめて実現するのです。学習の場が船という非日常の場であるだけに一層の危機管理意識が求められます。

*子どもたちが健康で安全な生活や楽しい食生活を送るためには、細やかなチェック体制とともに、指導者相互の報告・連絡・相談といった連携が一層求められます。

■ポイント5 「湖の子」サポーターの学習支援による「わくわく航海」

子どもが生き生きと瞳を輝かせ活動に取り組む学習支援として「湖の子」サポーターとの連携を深め、活動により一層深まりや広がりを持たせていきます。

*「湖の子」サポーターとの十分な打ち合わせを！

*事前や事後の活動にも学習支援の機会を設け、学習に深まりや広がりをも！

学習の深まりや広がりを求めて

環境学習の視点を大切にした



びわ湖の生き物ウォッチング



びわ湖に生きる人々



びわ湖環境学習



学校の学習とのつながりを重視した



子どもの学び意欲を大切にしたい

びわ湖の水の調査隊



発見！びわ湖



わくわく航海



子どもたちに健康で安全な生活を！
常にチェックと報告・連絡・相談



子どもが生き生きと瞳を輝かせる活動に！
「湖の子」サポーターによる学習支援

